

1. 職員・保護者アンケート結果の考察

【学校経営】について

- 4つの評価項目については、保護者の評価が3.8以上、職員の評価が3.7以上と高い評価でした。昨年度の評価とほぼ同じでしたが、職員はすべての項目で向上しました。
- 「学校は、学校経営目標や実情、ニーズなどを踏まえて本年度努力事項を設定している。」については、職員の評価が0.2ポイント上昇しており、今年度努力目標に対する意識の向上がうかがえます。今後も学校公開等の行事の際に、本校の教育に対する考え方を、機会があるごとに発信していきます。

【組織運営】について ※職員のみ回答

- 5つの評価項目については3.3以上でした。5つの項目のうち、4つの項目で評価が上昇しました。
- ICT活用や業務の精選等を図り、働き方改革を進めていますが、依然として「業務量が多く定時退庁日に退庁できない」との意見もあります。今後も職員の勤務時間外在校時間の短縮に向けて、出退勤時間の把握、業務の見直しを図っていきます。
- 「学校は、効果的・効率的に業務が遂行できるように校務分掌を組織している。」については、昨年度より0.3ポイント上昇しました。ただし、「情報機器の管理を専門家に委託できないか」などの意見もあり、大学へのICT支援員の要請など検討をしていきます。

【危機管理】について

- 4つの評価項目については、保護者の評価が3.7以上、職員の評価は3.8以上と高い評価でした。
- 職員の評価では3つの項目について0.2ポイント以上の上昇がみられ、危機管理に対する指導、整備、研修等について充実していることがうかがえます。
- 「学校は、災害への備えとして、計画的に備蓄品を準備している」については、0.4ポイント上昇しました。今年度は育友会から非常食について、商品の紹介や購入場所などの案内文書が出されるなどの取組がありました。今後は災害ヘルメットや非常用ホイッスルの整備など、非常時の備えをさらに進めていきます。

【教育活動】について

- 15の評価項目については、保護者の評価が3.7以上、職員の評価は3.3以上でした。
- 「学校は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を行っている」については、職員の評価は0.4ポイント上昇しています。校内研究の取組が授業改善につながっていることがうかがえます。
- 「学校は、進路実現ができるように自己選択・自己決定を促しながら進路指導を行っている」については、職員の評価は0.2ポイント上昇しています。進路だよりの発行、現場実習報告会や附属キャリアチャレンジの発信などが本校の進路指導の理解につながっています。
- 「学校は、生活年齢等に応じて、保健指導を適切に行っている」については、職員の評価は0.2ポイント上昇しました。今年度は、特にブラッシング指導について、学校、学校医、歯科衛生士校教員との3者で、今後のブラッシング指導の在り方について協議を行うなど充実が図られています。

【教育環境】について

- 4つの評価項目については、保護者の評価が3.6以上、職員の評価は3.3以上、どちらの評価も昨年度の評価と大きくは変わらない評価でした。
- 「学校は、教育活動に必要な施設・設備を整備している」については、職員の評価が0.2ポイント下降しました。校舎の雨漏り、シロアリ被害など施設面での対応が多く求められました。近年、温

暖化により運動場や体育館において活動が制限される日数が増加傾向にあります。今後も体育館エアコン設置など大規模改修については大学への予算要求を継続します。

【専門性の向上】について ※職員のみ回答

○7つの評価項目中、5項目において0.1～0.2ポイント上昇でした。

○「学校は、福祉制度などに関する研修を実施して職員の理解を深めている」については、昨年度より0.3ポイント上昇しました。進路だよりに福祉制度の情報を掲載したり、夏季休業中に福祉事業所説明会を開催したりした結果が評価につながっています。次年度も情報発信につながるものを計画していきます。

【開かれた学校】について

○7つの評価項目（保護者は6つの評価項目）については、保護者の評価が3.7以上、職員の評価は3.8以上と高い評価でした。また、職員の評価では7項目中5つの項目で上昇がみられました。

○「学校は、連絡帳や電話、一斉メールなどで、必要な情報を素早く保護者に伝えている。」については、保護者の評価3.9、職員の評価4.0と高い評価を得ました。今年度からTeamsを活用したデジタル連絡帳を導入した成果が表れていると考えられます。

○「学校は、ホームページや学校だよりを通して、学校の様子を保護者や地域に発信している」については、職員の評価が昨年度より0.2ポイント上がっています。今年度からInstagramを開設し、教育活動の発信を行っています。（投稿件数35件、フォロワー数75名、多いもので1投稿あたり視聴回数330回）。また、積極的にプレスリリースを出し、本校の教育活動を発信しています（テレビ局放送2回、新聞記事掲載1回）。

令和6年度 長崎大学教育学部附属特別支援学校 学校評価アンケート結果

回答：職員24／25 保護者49／52（世帯数）

分野	番号	具 体 的 な 評 価 項 目	職 員								保 護 者							
			小学部		中学部		高等部		全体		小学部		中学部		高等部		全体	
			R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
学校経営	1	学校は、学校の使命や校訓、学校教育目標などを踏まえて学校経営目標を設定している。	3.6	3.7	3.9	3.7	3.9	3.7	3.8	3.7	3.8	3.9	3.9	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8
		今後の方向性	○大学と連携し、附属特別支援学校としての使命を果たすべく、具体的で実践的な目標を設定していく。															
	2	学校は、学校経営目標や実情、ニーズなどを踏まえて本年度努力事項を設定している。	3.6	3.6	3.7	3.7	3.9	3.7	3.8	3.6	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8
		今後の方向性	○各部、各分掌部等が実践し評価できる具体的な目標を設定していく。															
	3	部は、学校経営目標や本年度努力事項、部の実態などを踏まえて部経営方針を設定し、部の運営を行っている。	3.8	3.7	3.4	3.5	3.9	3.6	3.7	3.6	3.7	3.8	3.9	3.8	3.9	3.9	3.8	3.8
		今後の方向性	○学部目標達成に向けた具体的方策・努力事項を設定し、学期ごとに振り返りを行い課題を明確にし各部の運営を行う。															
	4	学級は、学校経営目標や本年度努力事項、部経営方針、学級の実態などを踏まえて学級経営方針を設定し、学級の運営を行っている。	3.6	3.7	3.6	3.5	3.9	3.7	3.7	3.6	3.7	3.9	3.7	3.8	3.9	3.9	3.8	3.8
		今後の方向性	○学級ごとの重点目標及び指導の方針を明確に示して、副担任と連携しながら学級運営を行う。															
組織運営	5	学校は、効果的・効率的に業務が遂行できるように校務分掌を組織している。	3.3	3.3	3.4	3.2	3.1	2.7	3.3	3.0								
		今後の方向性	○今後もICTを有効活用し、校務の円滑化・効率化を進める。また、ICT機器やデータ等の管理については大学のシステム、担当部署の有効活用を図り、業務軽減につなげる。															
	6	分掌部は、学校経営目標や本年度努力事項、学校の実情などを踏まえて分掌部方針を設定し、分掌部の運営を行っている。	3.8	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	3.5								
		今後の方向性	○今後も具体的な分掌部方針を設定し、他分掌部との連携を図りながら計画的な運営に努める。															
	7	学校は、目的に応じた委員会を設置し、適切に運営している。	3.8	3.6	3.4	3.5	3.3	3.2	3.5	3.4								
		今後の方向性	○必要な委員会は適宜開催されている。今後も法令等に基づき、必要な委員会を設置し運営していく。															
	8	学校は、計画的に定時退庁日を設定している。	3.4	3.3	3.6	3.7	3.8	3.7	3.6	3.5								
		今後の方向性	○今後も月1回の定時退庁日に加え、各部毎月2回の定時退庁日（マイライフデイ）を設定する。また、勤務時間外在校時間の短縮に向けて、職員の出退勤時間の把握、業務の見直しを図っていく。															
	9	学校は、文書や金銭等の管理や処理を適切に行っている。	3.8	3.9	3.3	3.5	3.9	3.8	3.7	3.7								
今後の方向性		○文書・金銭の管理・処理は適切に行われている。文書管理についてはICTを活用し効率化を図る。金銭については、学校における現金の取り扱いをなくしていくよう見直ししていく。																

令和6年度 長崎大学教育学部附属特別支援学校 学校評価アンケート結果

回答：職員24／25 保護者49／52（世帯数）

分野	番号	具 体 的 な 評 価 項 目	職 員								保 護 者								
			小学部		中学部		高等部		全体		小学部		中学部		高等部		全体		
			R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	
危機管理	10	学校は、避難訓練などを通して、児童生徒の安全・防災に関する指導を適切に行っている。	3.6	3.6	3.9	3.7	3.9	3.6	3.8	3.6	3.6	3.8	3.8	3.9	3.9	3.9	3.8	3.9	
		今後の方向性	○避難訓練や事後学習ののよりよい在り方について検討し、改善を図っていく。																
	11	学校は、危機管理マニュアルを整備するとともに、必要に応じて見直しを行っている。	3.8	3.7	3.7	3.7	4.0	3.8	3.8	3.7	3.6	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	
		今後の方向性	○避難経路を明記して、危機管理マニュアルをより活用できるよう改善していく。																
	12	学校は、災害への備えとして、計画的に備蓄品を準備している。	3.8	3.4	3.9	3.3	3.9	3.4	3.8	3.4	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	
		今後の方向性	○ヘルメット等、必要な備蓄品について検討し、準備を進める。																
	13	学校は、事故やヒヤリハットが起きた際には、職員間で情報を共有し、再発防止に努めている。	3.9	3.9	3.9	3.5	4.0	3.7	3.9	3.7	3.5	3.7	3.6	3.6	3.8	3.7	3.7	3.6	
		今後の方向性	○状況を部の職員で確認し、原因・今後の対策を速やかに全職員で共有する。職員一人一人が意識をもち行動し、再発防止に努める。																
	教育活動	14	学校は、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階並びに学校や地域の実態等を十分考慮して、適切な教育課程を編成している。	3.4	3.6	3.6	3.5	3.7	3.3	3.5	3.5	3.8	3.7	3.8	3.6	3.9	3.8	3.8	3.7
			今後の方向性	○教育課程の課題について、各部で教育課程検討会の時間を設定して検討を進めている。今後も児童生徒の実態を考慮しながら教育課程の編成を行いたい。															
15		学校は、教育課程に基づいて適切に教育活動を実践している。	3.6	3.7	3.4	3.5	3.8	3.6	3.6	3.6	3.9	3.8	3.8	3.7	3.9	3.8	3.8	3.7	
		今後の方向性	○単元計画の活用を通して実践と反省を繰り返し教育課程に基づいた教育活動を行う。次年度の教育課程に反省点や課題を反映させる。																
16		学校は、前年度の反省を生かして、学校行事の時期や回数、内容などを設定している。	3.6	3.7	3.4	3.2	3.8	3.6	3.6	3.5	3.8	3.7	3.7	3.8	3.7	3.8	3.7	3.7	
		今後の方向性	○行事終了後には職員にアンケートを実施し、改善点を整理することで次年度に生かすようにしている。																
17		学校は、個別の指導計画を作成し、児童生徒の特性などに配慮しながら個に応じた指導を行っている。	3.6	3.6	3.4	3.5	3.3	3.7	3.5	3.6	3.9	3.9	3.9	3.6	3.9	3.8	3.9	3.7	
		今後の方向性	○目標や指導内容等を職員間で共通理解し、個に応じた指導がさらに充実するようにする。																
18		学校は、日々の指導の中で、道徳教育に関する指導を適切に行っている。	3.5	3.4	3.6	3.5	3.2	3.0	3.4	3.3	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.7	3.8	
		今後の方向性	○小（3組）、中学部においては時間を特設し、高等部においては各教科等を合わせた指導の中で道徳の指導内容に沿った内容を進めている。また、全学部教育活動全体において道徳性を養うことを意識した指導を行っている。今後もより道徳教育全体計画を意識しながら指導を進める。																
19	学校は、児童生徒の実態を的確に把握し、必要な指導を計画的に行っている。	3.6	3.7	3.4	3.5	3.8	3.7	3.6	3.6	3.8	3.8	3.8	3.6	3.9	3.8	3.8	3.7		
	今後の方向性	○複数教員での児童生徒の実態の共有や各教科のチェックリスト、SSB（キャリアパスポート）などで実態把握に努める。自立活動の情報整理シートについては、各部で確実に活用して実態把握を行うようにする。																	

令和6年度 長崎大学教育学部附属特別支援学校 学校評価アンケート結果

回答：職員24／25 保護者49／52（世帯数）

分野	番号	具 体 的 な 評 価 項 目	職 員								保 護 者							
			小学部		中学部		高等部		全体		小学部		中学部		高等部		全体	
			R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
教育活動	20	学校は、キャリア教育全体計画を意識しながら日々の指導を行っている。	3.1	3.3	3.4	3.5	3.4	3.0	3.3	3.2	3.9	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8
		今後の方向性	○全体計画や各学部の育てたい力を踏まえ、各学部に応じた実践を行っていく。															
	21	学校は、「体罰」や「不適切な言動」によらない指導を行っている。	3.8	3.9	3.9	3.7	4.0	3.9	3.9	3.8	3.9	3.8	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9
		今後の方向性	○児童生徒に対する言葉と行動については職員間で共有し、指導方法について共通理解を図っている。今後もさらに継続して行う。															
	22	学校は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を行っている。	3.5	3.1	3.7	3.5	3.7	3.0	3.6	3.2	3.8	3.9	3.9	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8
		今後の方向性	○研究授業や授業研究を行い、日々の授業改善につなげることができている。今後も継続していきたい。															
	23	学校は、学習内容や教材を工夫しながら指導を行っている。	3.8	4.0	3.6	3.8	3.9	3.7	3.8	3.8	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9
		今後の方向性	○教師が作成・使用した教材を共有して、利活用しながら指導の充実を図っていく。I CT機器も効果的に活用していくために、職員の研修を充実させていく。															
	24	学校は、進路実現に向けて現場実習や進路に関する学習を適切に行っている。	3.6	3.9	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.8
		今後の方向性	○小・中学段階でも近隣の事業所見学を計画したり、進路決定につながる学習内容を検討したりするなど早期から継続した取組を行っていきたい。															
	25	学校は、進路実現ができるように自己選択・自己決定を促しながら進路指導を行っている。	3.8	3.6	3.7	3.7	3.8	3.7	3.8	3.6	3.9	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.8
		今後の方向性	○授業参観や進路だよりなどを通して学校での進路指導の様子などを保護者に伝える（知っていただく）機会を積極的に設けるようにする。															
	26	学校は、卒業後の生活が豊かになるように、体験学習などを適切に実施している。	3.6	3.7	3.7	3.7	3.8	3.6	3.7	3.6	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.9	3.9	3.9
		今後の方向性	○様々な体験・経験ができるよう、各部体験的な学習を計画・実施している。また、外部講師による授業も積極的に実施していく。															
	27	学校は、生活年齢等に応じて、保健指導を適切に行っている。	3.5	3.1	3.7	3.7	3.8	3.6	3.7	3.5	3.7	3.8	3.6	3.7	3.8	3.9	3.7	3.8
		今後の方向性	○ブラッシング指導の染め出し結果や、各検診結果等に基づき、家庭や関係機関と連携した歯科及び肥満に関する継続的な保健指導を実施する。															
28	学校は、共生社会の実現に向けて、交流及び共同学習を計画し、学校間交流や居住地校交流を適切に実施している。	3.8	3.9	3.6	3.5	3.4	3.6	3.6	3.6	3.9	3.7	3.7	3.8	3.5	3.5	3.7	3.7	
	今後の方向性	○小・中学部は、附属小・中学校と交流学習を行った。今年度から中学部生徒においても居住地校交流の希望があり、希望の児童生徒については、それぞれの実態に応じた時間を調整し居住地校交流を実施することができた。																

令和6年度 長崎大学教育学部附属特別支援学校 学校評価アンケート結果

回答：職員24／25 保護者49／52（世帯数）

分野	番号	具 体 的 な 評 価 項 目	職 員								保 護 者							
			小学部		中学部		高等部		全体		小学部		中学部		高等部		全体	
			R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
教育環境	29	学校は、教育活動に必要な施設・設備を整備している。	<u>3.3</u>	3.3	<u>3.3</u>	3.3	<u>3.4</u>	3.7	<u>3.3</u>	3.5	<u>3.6</u>	3.5	<u>3.4</u>	3.6	<u>3.8</u>	3.8	<u>3.6</u>	3.6
		今後の方向性	〇グラウンド整備や旧陶芸窯撤去、体育館エアコン設置など大規模改修については大学への予算要求を継続する。															
	30	学校は、施設・設備の安全点検を定期的実施し、問題点があれば早急に対応している。	<u>3.5</u>	3.6	<u>3.6</u>	3.3	<u>3.9</u>	3.9	<u>3.7</u>	3.6	<u>3.7</u>	3.6	<u>3.7</u>	3.7	<u>3.8</u>	3.9	<u>3.8</u>	3.7
		今後の方向性	〇遊具点検など、安全点検が必要な箇所の見直しを行い、反映させていく。															
	31	学校は、校舎内外の美化に努めている。	<u>3.5</u>	3.4	<u>3.7</u>	3.7	<u>3.7</u>	3.8	<u>3.6</u>	3.6	<u>3.8</u>	3.8	<u>3.7</u>	3.8	<u>3.9</u>	3.9	<u>3.8</u>	3.9
		今後の方向性	〇気温等（特に夏季）を考慮しながら、できること、必要なことを検討して実践していく。															
	32	学校は、校内の掲示を工夫して行っている。	<u>3.4</u>	3.4	<u>3.6</u>	3.7	<u>3.7</u>	3.3	<u>3.5</u>	3.5	<u>3.9</u>	3.8	<u>3.9</u>	3.9	<u>3.8</u>	3.8	<u>3.8</u>	3.8
		今後の方向性	〇行事や学習内容、季節に応じて各部とともに掲示の工夫を行っている。今後も学習内容と関連をもたせながら掲示の工夫や情報発信を行っていく。															
専門性の向上	33	学校は、カリキュラム・マネジメントの確立に向けて調査・研究を行っている。	<u>3.1</u>	3.4	<u>3.7</u>	3.3	<u>3.1</u>	2.9	<u>3.3</u>	3.2								
		今後の方向性	〇カリキュラム・マネジメントについて、深める時間は十分に確保できなかった。他分掌と協力しながら、運用方法を深めていけたらと考えている。															
	34	学校は、人権に関する研修を適切に実施している。	<u>3.6</u>	3.1	<u>3.4</u>	3.7	<u>3.7</u>	3.6	<u>3.6</u>	3.5								
		今後の方向性	〇令和6年度から外部講師による研修を実施しているため、まずは数年継続して実施し、より良い方法について毎年検討を行っていく。															
	35	学校は、福祉制度などに関する研修を実施して職員の理解を深めている。	<u>3.3</u>	3.3	<u>3.3</u>	3.2	<u>3.7</u>	3.0	<u>3.4</u>	3.1								
		今後の方向性	〇理解を深めるために進路だよりに福祉制度の情報を掲載したり、夏季休業中に福祉事業所説明会を開催したりした。次年度も情報発信（共有）につながるものを計画したい。															
	36	学校は、教員として必要な研修（現職教育）を計画的に実施している。	<u>3.3</u>	3.3	<u>3.3</u>	3.3	<u>3.6</u>	3.3	<u>3.4</u>	3.3								
		今後の方向性	〇校内における研修については、例年通りの実施であった。来年度も同じように実施していきたい。															
37	学校は、授業研究などを通して授業力の向上に努めている。	<u>3.6</u>	3.7	<u>3.6</u>	3.5	<u>3.7</u>	3.9	<u>3.6</u>	3.7									
	今後の方向性	〇主体性を育成する研究の中で計画的に授業研究を実施することができた。来年度以降も同様の取組を行いたい。																

令和6年度 長崎大学教育学部附属特別支援学校 学校評価アンケート結果

回答：職員24／25 保護者49／52（世帯数）

分野	番号	具 体 的 な 評 価 項 目	職 員								保 護 者							
			小学部		中学部		高等部		全体		小学部		中学部		高等部		全体	
			R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
専 門 性 の 向 上	38	学校は、効果的な教育実地研究の実施に向けて、課題の分析と改善を行っている。	3.6	3.4	3.6	3.3	3.4	3.3	3.5	3.4								
		今後の方向性	○校内研究の中で深めることができた。来年度以降も計画的で充実した研究となるようにしていきたい。															
	39	教員は、教育センターの研修講座や各種研修会に参加し、専門性の向上に努めている。	3.0	3.1	3.1	2.8	3.0	3.0	3.0	3.0								
		今後の方向性	○外部研修会参加については、今年度も改善を図ることができなかった。集合型研修の場合は教員の授業の代替など、学部内人員の確保が課題である。															
開 け ら れ た 学 校	40	学校は、教職員や保護者等に対して学校経営方針を明確に示している。	3.8	3.7	3.9	3.5	3.9	3.6	3.8	3.6	3.7	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	3.8	3.8
		今後の方向性	○年度初めに本校教職員、保護者に対して行い、学校公開や体験入学等で外部へも発信している。															
	41	学校は、大学と連携し、附属学校園の特別支援教育に関して、センターとしての役割を果たしている。	3.6	3.7	3.9	3.5	3.6	3.3	3.7	3.5								
		今後の方向性	○大学の教育臨床センターの先生方と協働しながら支援の充実を図っていく。															
	42	学校は、ホームページや学校だよりを通して、学校の様子を保護者や地域に発信している。	3.9	3.6	3.7	3.5	3.7	3.3	3.8	3.5	3.8	3.8	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9
		今後の方向性	○ホームページについては、さらに見やすいものとなるようにリニューアルを図っていている。今年からInstagramを開設し、学校の様子の発信に努めている。															
	43	学校は、連絡帳や電話、一斉メールなどで、必要な情報を素早く保護者に伝えている。	4.0	3.9	3.9	3.7	4.0	3.8	4.0	3.8	4.0	3.8	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9
		今後の方向性	○安心メールを活用し、保護者への案内等電子化を図り適時情報を発信している。また、デジタル連絡帳を活用し、担任と家庭との連絡を密に行っている。															
	44	学校は、関係者や地域に対する学校公開を適切に実施している。	3.9	3.4	3.7	3.7	3.9	3.7	3.8	3.6	3.9	3.6	3.9	3.9	3.8	3.7	3.9	3.7
		今後の方向性	○7月の学校公開を通して、開かれた学校を目指していく。															
	45	教職員は、保護者からの相談に対し、誠意をもって丁寧に対応している。	3.9	4.0	3.9	3.7	4.0	3.8	3.9	3.8	3.9	3.8	3.7	3.9	3.9	3.9	3.8	3.9
		今後の方向性	○保護者からの相談に丁寧に対応し、連携しながら児童生徒の支援に細やかに関わっていく。															
46	教職員は、保護者や学校関係者に対し、「すみれ運動（スマイル・身だしなみ・礼儀）」を意識し、丁寧に対応している。	3.9	3.9	3.9	3.7	3.8	3.6	3.8	3.7	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	
	今後の方向性	○教師自身が手本となって実践し、保護者や地域、関係機関と良好な関係づくりができるよう継続していく。																